

# 「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0533 ◆◆◆

19/05/15

## 【「ラマダン」はじまる、今年も自爆テロなどに要注意】

イスラム教の重要イベントである「ラマダン」が先日始まった。日程などについては後述するが、近年では金融市場においても幾つかの意味で注目を集めており、今年も当然要注意だ。たとえば、テロに関して言えば、開始早々の今月 8 日、パキスタンで警察車両を狙ったとみられる爆発があり、警官や市民ら 10 人が死亡、約 20 人が負傷するという事件がすでに発生、反政府勢力パキスタン・タリバーン運動(TTP)の分派組織が犯行声明を出したことは記憶に新しい。予断の許さない約 1 ヶ月間になりそうだ。以下では、「ラマダン」に関して、2 つの側面からレポートしてみたい。

### << 15 年以降は期間中のテロ多発、今年もすでにテロ発生 >>

イスラム教徒にとってはとても大事、かつ神聖なイベントである「ラマダン(断食月)」が先日始まった。肝心の日程だが、今年は、5 月 7 日から 6 月 4 日ごろと言われている。ちなみに、日程に「ごろ」をつけて特定しなかったのは、「期間は目視による月齢観測に依拠するため、日程は直前に変更されることもある」ためだ。実際に、一部では「6 月 5 日終了説」も有力視されるなど、1-2 日ほど期間がズレても不思議はないかも知れない。

そんな「ラマダン」と自爆テロ、本来であれば直接的な関係などまったくないわけだが、一部シンクタンクの調査によると近年は「期間中にテロが発生する」傾向が高いことは明白だという。とくにイスラム過激派組織ISが、インターネット上で、「期間中のテロを広く呼びかける声明」を公開、それに呼応する格好でフランス、エジプト、クウェート、マリ、ナイジェリアでテロが発生した 2015 年を皮切りに、以降は毎年何某かの自爆テロなどが発生している。実際、今年についても、先で指摘したように「ラマダン」がはじまった翌日に早くもパキスタンで自爆テロ事件が発生、多大な人的被害も確認されていた。

自爆テロに関すれば、もはや「日本人だから大丈夫」ということは、通用しない状況にあることは明らかだろう。そのため、外務省は今年もホームページで「ラマダン月にとまなう注意喚起」と題する広域情報を掲載しているし、在スリランカ日本大使館のように、個別に「宗教施設や人が多く集まる場所は避けるよう、在留邦人に対してあらためて注意喚起を行う」先も少なくない。史上初の 10 連休というゴールデンウィーク、長期休暇を先日終えたものの、繁忙期をずらして今後海外旅行を楽しまれる方もいると思われる。先の外務省HPなどを是非一読したうえで、十分な注意を払って渡航に臨んでいただきたい。

### << 期間中、経験則的に為替相場は小動きか? >>

一方、ラマダン期間中の為替(ドル/円)変動を調べてみると、おおむね小動きに推移する傾向がうかがえる。とくに、2010 年以降という近年、その傾向がとくに強い。

実際に幾つか事例を挙げると、まずは 2010 年のラマダン期間(8 月 11 日-9 月 9 日)の形成レンジは 83.84-86.39 円で約 2.5 円、2012 年(7 月 20 日-8 月 18 日)は 77.90-79.58 円で約 1.6 円、2014 年(6 月 29 日-7 月 27 日)は 101.06-102.27 円で約 1.2 円ーなどとなる。明らかに、「大きく動いた」と言えるケースは期間中だけで約 9 円もの変動を達成した 2016 年(6 月 6 日-7 月 5 日)のみだった。

何故、ラマダン期間中の為替変動は鈍いのか? 明確な相関性はわかっていないが、イスラム教徒は中東に多く、いわゆるオイルマネーの動きに影響を及ぼすことがある、とも考えられている。いずれにしても、今年のドル/円相場は 1 月初めこそ大きく動意づいたものの、その後は鳴かず飛ばず。ここ最近についても、レンジの下抜け機運が高まりつつあるとはいえ、それでも 3 週間であつた 3 円強の変動に過ぎない。現状のような方向性の乏しい商状は、思いのほか長く続く可能性もある。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

